

「健康経営」講座開設

健康・医療データ分析のアイセック（新潟市中央区）と新潟大は13日、企業が業績向上を見据えて従業員健康管理を戦略的に行う「健康経営」の講座を開設した。新潟大医学部の教授らが医学的根拠に基づき講義する。初年度は県内企業の担当者ら約40人を対象に体系的な学びを提供し、県内での普及や専門人材の育成を目指す。

アイセック（新潟中央区）と新潟大

新潟大医学部発ベンチャーとして2019年に設立したアイセックは、健康に関わる研究成果を社会で実践するための働きかけを行っている。

健康経営は、心身の健康を保つ職場づくりにより、仕事の能率向上や、病気による職場離脱の防止といった効果を見込む。従業員の活力や生産性を高めることで、企業の収益増加につながる狙いがある。

16年に始まった経済産業省の「健康経営優良法人認定制度」には全国で約1万7千社が申請。従業員に対して食生活の改善や運動を促したり、受動喫煙の対策を講じたりしている。アイセックによると県内でも増

業績向上、専門人材育成狙う

加傾向にあるが、全国に比べ遅れているという。

アイセックと新潟大は、長時間身を置く職場での対策が、生活習慣病の予防につながる。トップダウンでなく、社員が知識を得て、職場に応じた改善策を考え実践することを目指し、経産省の補助金を基に無料講座を開設した。国立大の医学部による健康経営の講座は国内初めて。

初年度の講座は来年2月まで、座学やグループワーク、ウェブ配信を組み合わせて30コマ実施する。新潟大に加え県内外の専門家らが、健康経営に関わる制度説明の他、がんや喫煙、飲酒など幅広いテーマで講義する。ナミックス（新潟市北区）や亀田製菓（同市江南区）など県内企業の担当者三十数人と新大生4人が応募した。

開講記念シンポジウムとして13日、新潟市中央区で初回講座が開かれ、受講者と関係者らが参加した。アイセック取締役を兼ねる新潟大医学部の曾根博仁教授が、生活習慣病の合併症を防ぐには、早期発見や継続的な治療が必要だと指摘。「健康診断の受診や通院しやすい雰囲気づくりなど、職場でできることは多い」と話した。

講座は次年度以降も開かれる。



アイセックと新潟大が企業担当者ら向けに開いた健康経営講座＝13日、新潟市中央区